

## 2021年度 授業についての満足度調査

1. 調査目的 ①学科の取組について評価する  
②授業で身につけるべき能力(教育上の目的)について評価する  
③学生自身の授業への取組について評価する  
④学習成果がどの程度身についたか評価する

以上の①～④から、学生の授業への満足度を調査することにより、個々の項目を精査し翌年度の授業改善の一助とする。

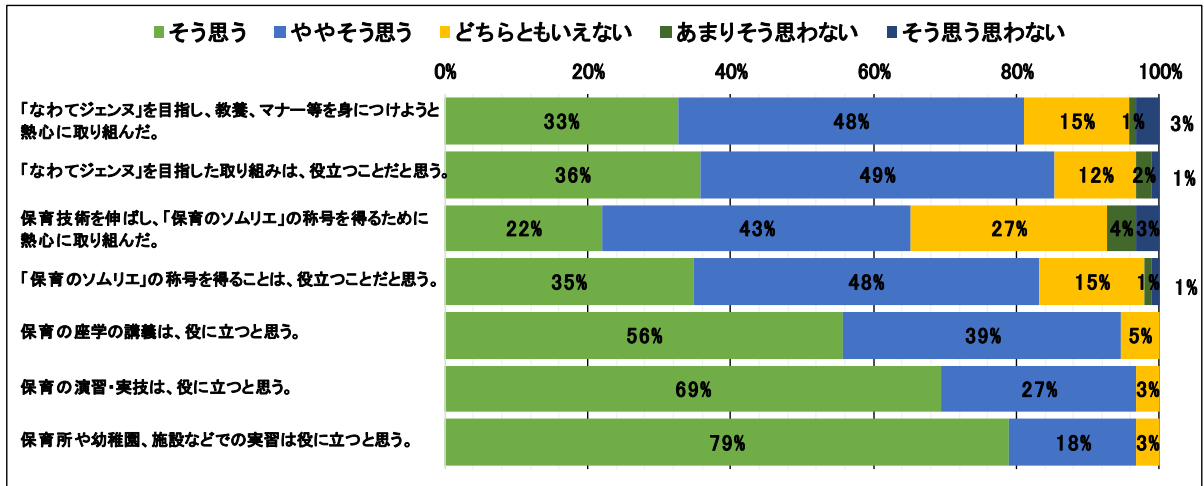
2. 実施期間 2022年1月中旬～2022年3月上旬

3. 調査回答者数 保育学科回収率 1年生 90.5% (95人)  
2年生 94.7% (71人)  
ライフデザイン総合学科回収率  
1年生 92.5% (62人)  
2年生 93.9% (62人)

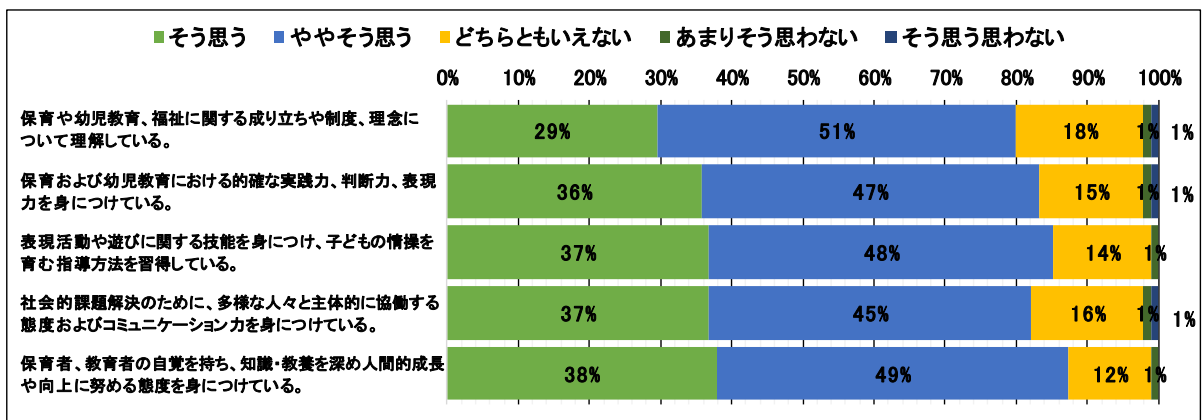
4. 調査方法 無記名のアンケート用紙で実施し、回収、集計等はFD・SD委員が担当。

5. 結果のデータ処理 従来の両学科同じ内容の設問項目ではなく、両学科それぞれの教育内容を意識した質問項目を設定した。  
ただし、ライフデザイン総合学科設問項目I以外では、  
“そう思う～そう思わないの”5段階評価としてグラフ化した。

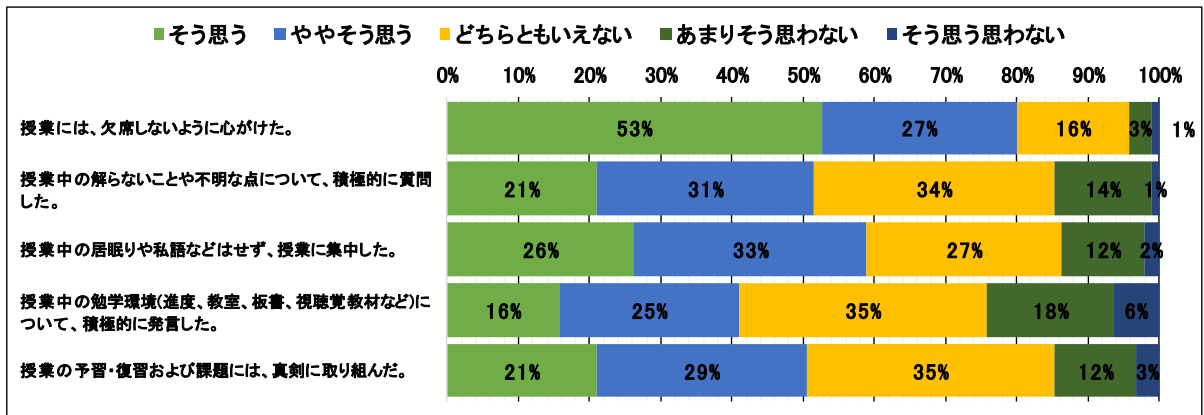
設問Ⅰ 保育学科に関する項目について



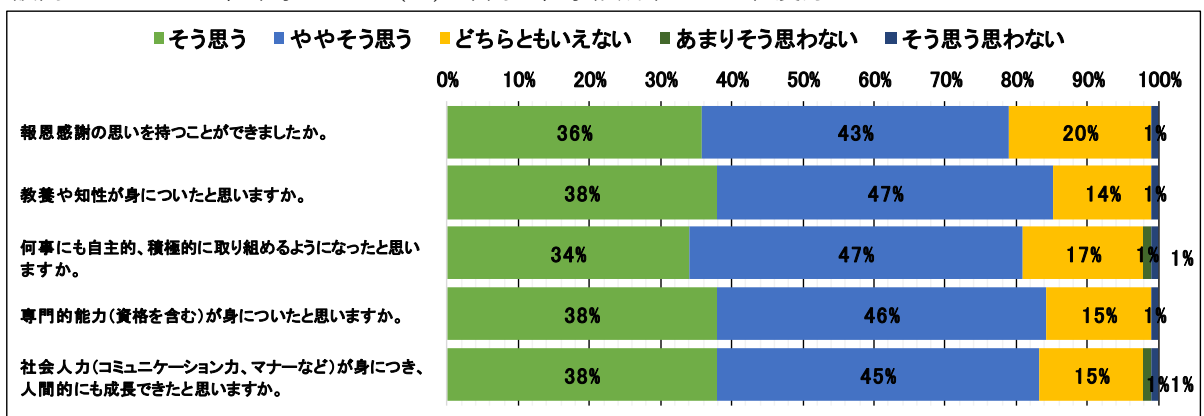
設問Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力について



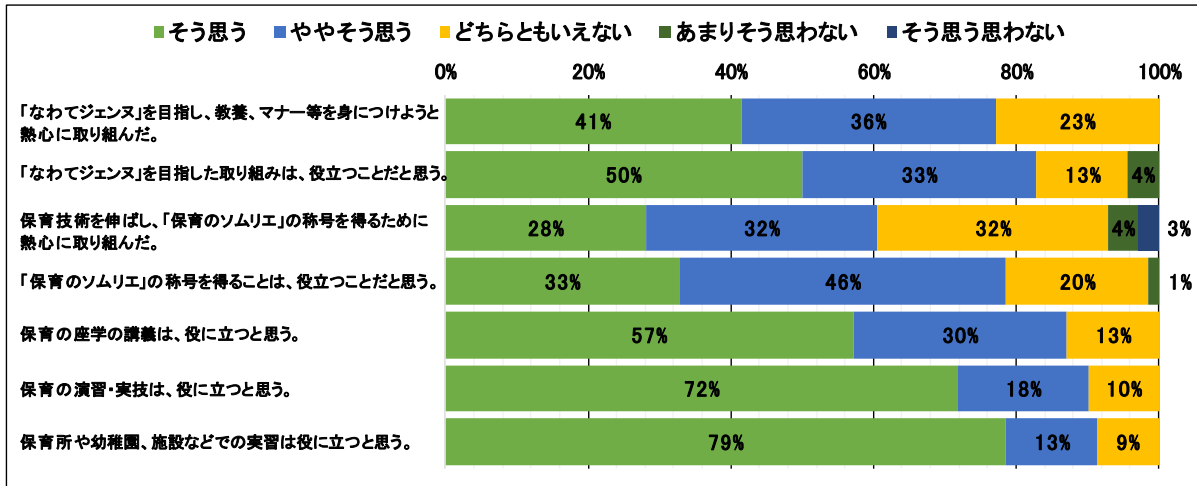
設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて



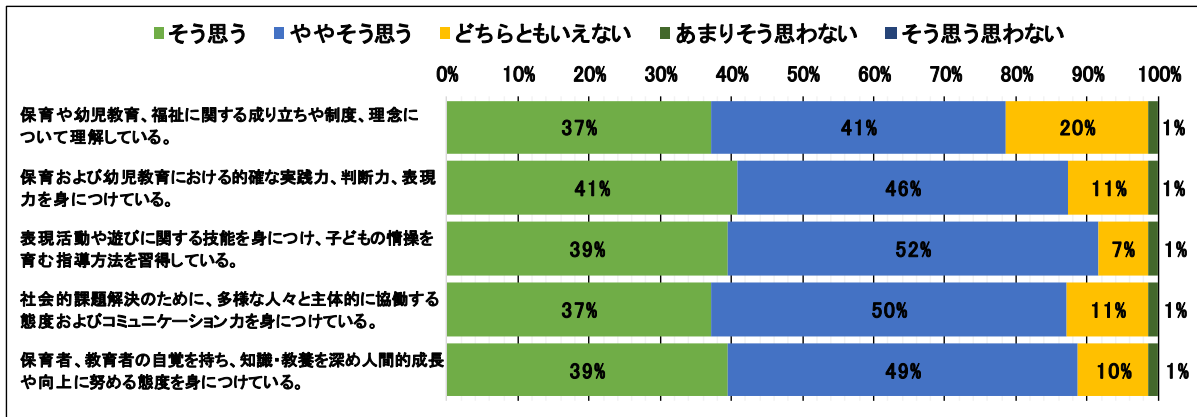
設問Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学修成果がどの程度身についたか



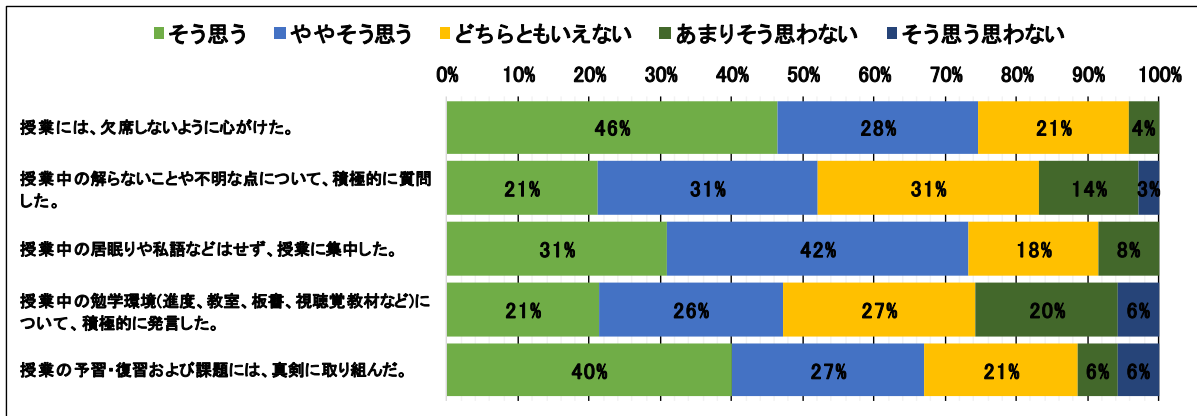
設問Ⅰ 保育学科に関する項目について



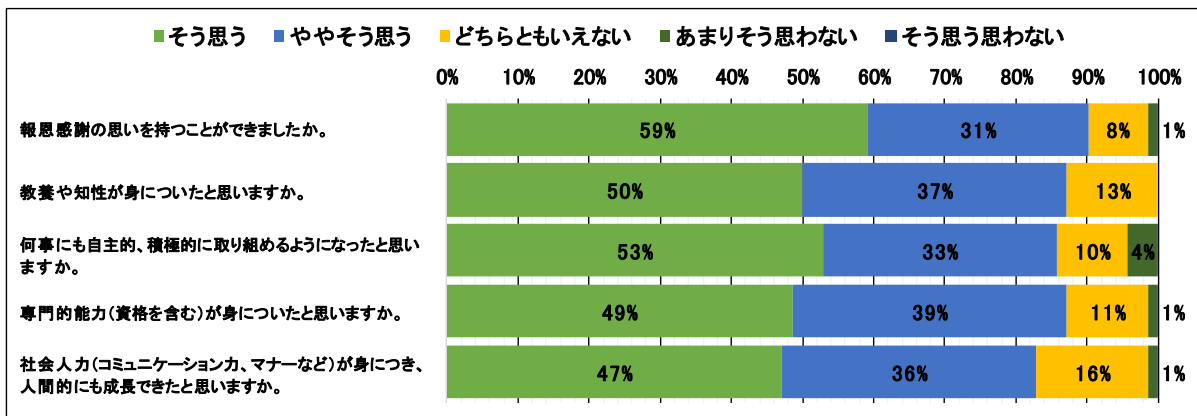
設問Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力について



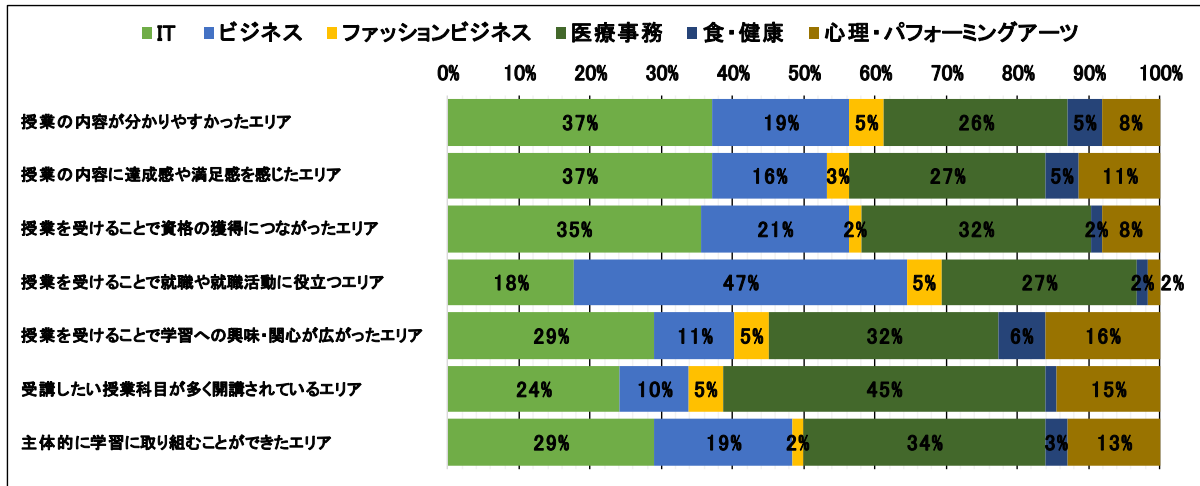
設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて



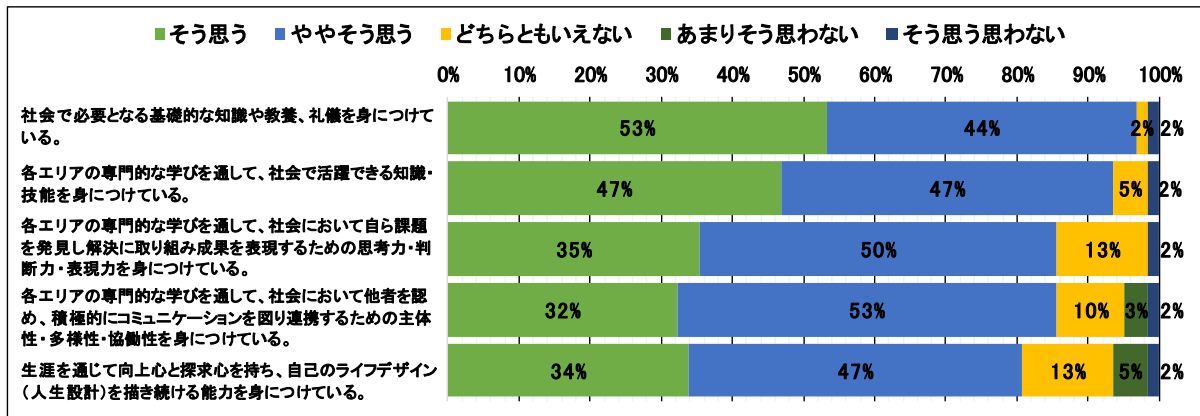
設問Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学修成果がどの程度身についたか



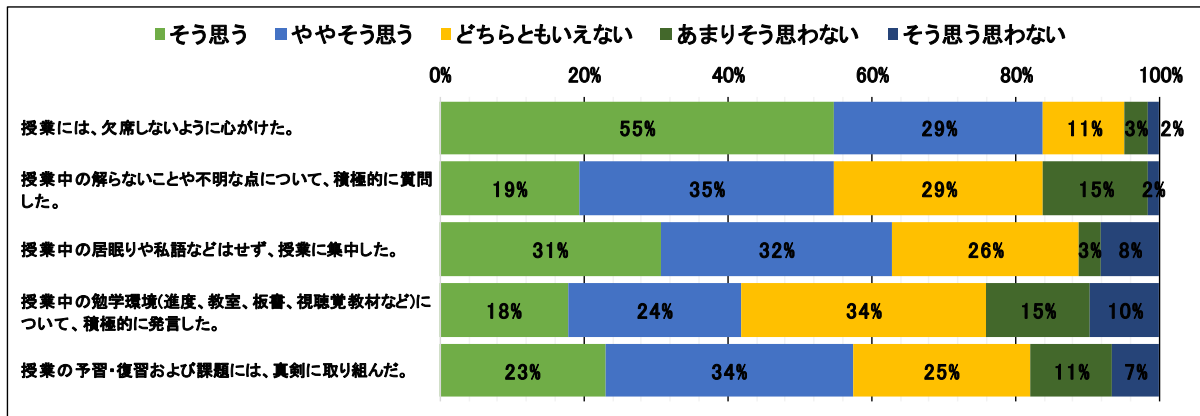
設問Ⅰ ライフデザイン総合学科のエリアについて



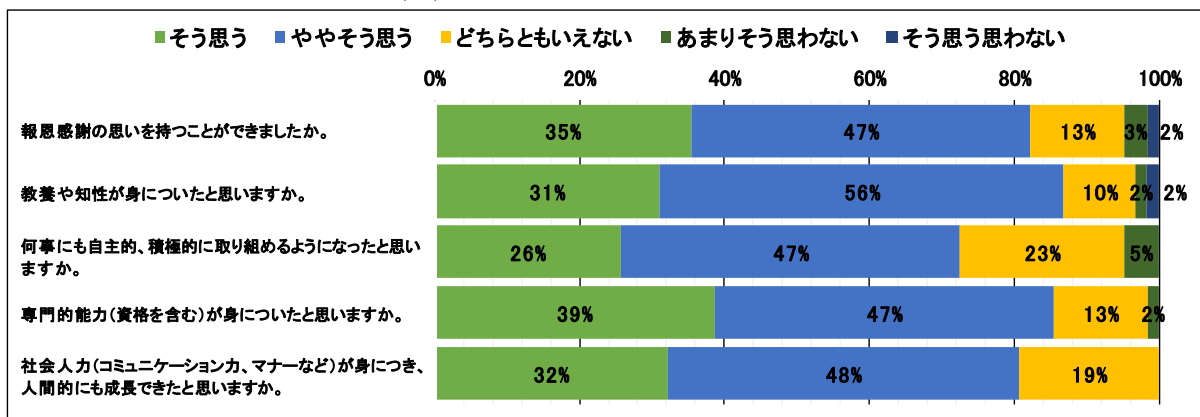
設問Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身に付けるべき能力について



設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて



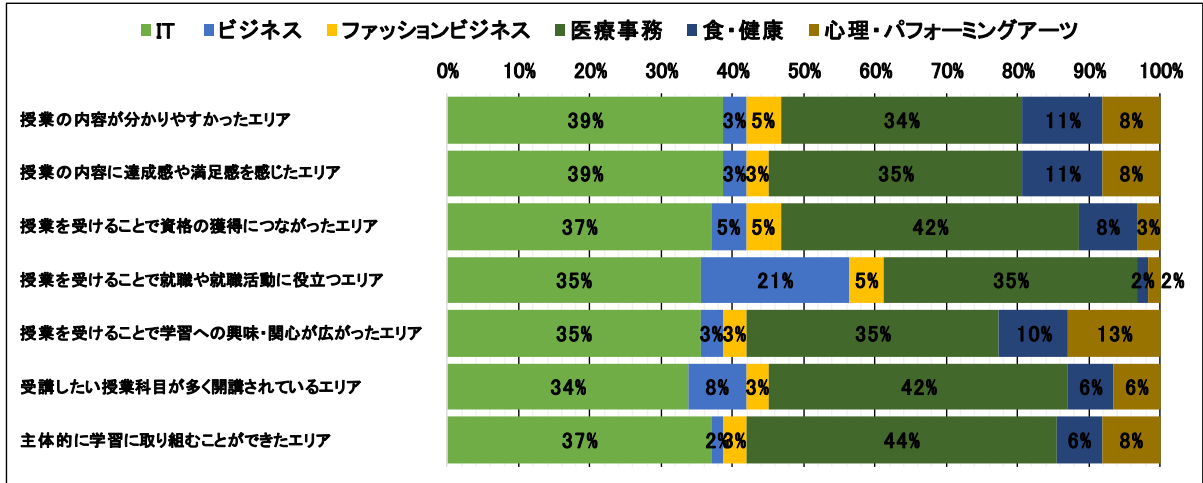
設問Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学修成果がどの程度身についたか



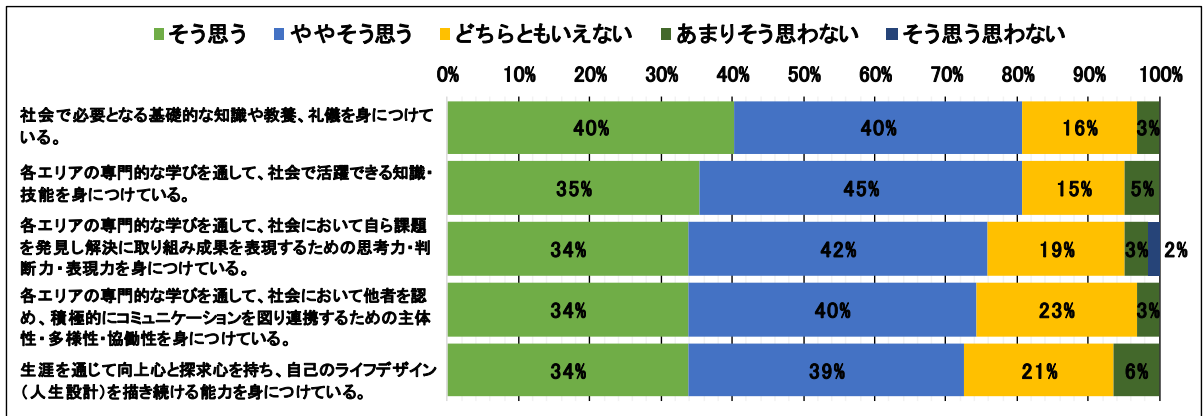
# ライフデザイン総合学科 2年生

回答率 93.9%

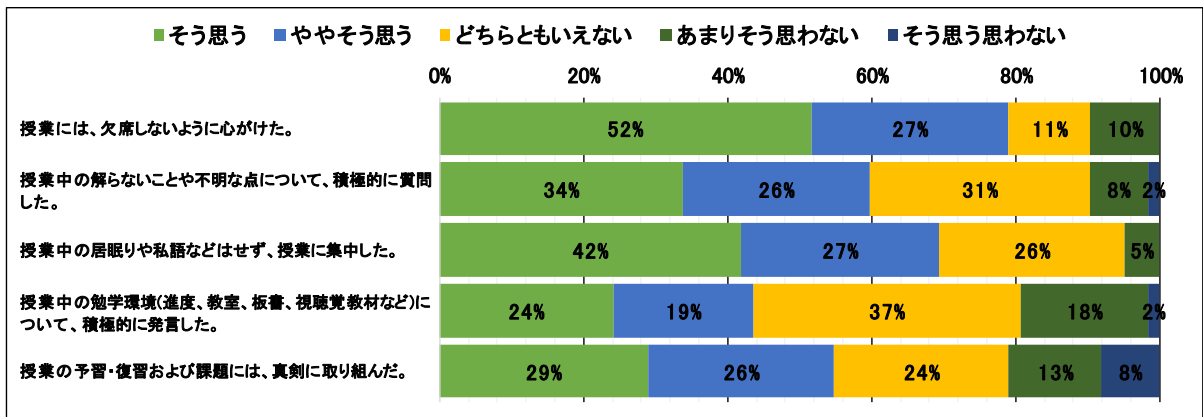
## 設問Ⅰ ライフデザイン総合学科のエリアについて



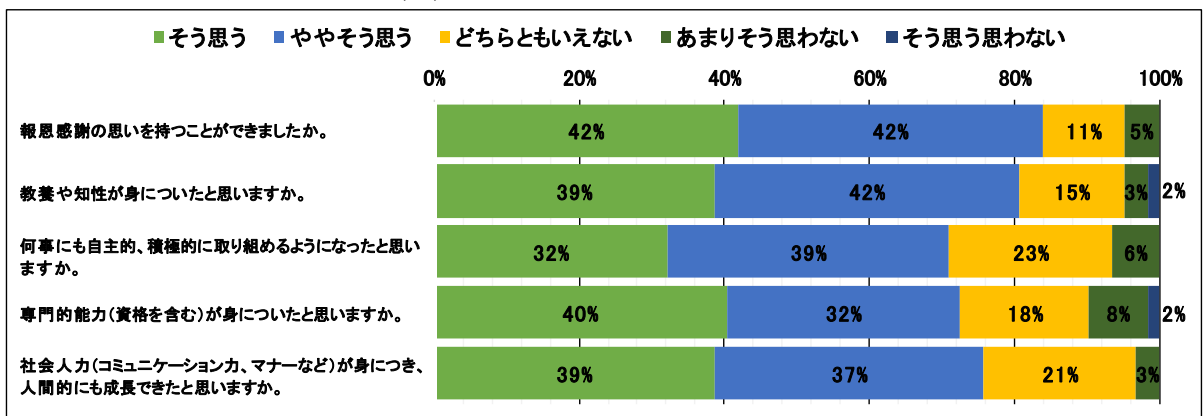
## 設問Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身に付けるべき能力について



## 設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて



## 設問Ⅳ あなたは、本学での2(1)年間で、学修成果がどの程度身についたか



## 2021年度 授業についての満足度調査

保育学科調査結果コメント (学科長：合田誠)

### 設問項目 I

保育学科に関する項目について

今年度の全体的な傾向は昨年度と違い1・2年生間では、ほぼ同様の結果が明らかになった。

保育学科のオリジナル目標である「なわてジェンヌ」については、「教養」や「マナー」等を「身に付けよう」と取り組んだかどうかの設問に「そう思う」及び「ややそう思う」と回答したのが1年生で81%、2年生で77%となり、両学年ともに、8割前後を占めた。「なわてジェンヌ」の取り組みの必要性を認識させている動機付けとして「役立つ」かどうかの問いが、1年生で85%、2年生が83%と「そう思う」及び「ややそう思う」に上っていることから明らかなように、学生がほぼその内容を理解し、重要性を認識している。さらにその必要性を認識させる効果を高めたのが、「なわてジェンヌ」ノートである。実習授業の冒頭に各学生に1週間の振り返りをしてもらい、次週の目標を各自が設定する取り組みを通年にわたり行ったことも大きいと考えられる。

次に「保育のソムリエ」に関してである。改めて今年度気付いたことは、「保育のソムリエ」の称号を得るために取り組んだかどうかの問いに対して、1年生は65%、2年生の60%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答している。関連する問いかけとして「保育のソムリエ」は役立つかどうかの問いかけの回答が1年生で83%、2年生が79%となっており、ソムリエの称号を得るために、取り組むのではなく、「絵本ソムリエ」、「工作ソムリエ」、「手遊びソムリエ」、「伝承ソムリエ」の4つの技術を身に付けたいという純粋な動機により保育者を目指そうとしている姿勢があるのではと感じられた。一方で「保育のソムリエ」を活性化させるために学科で各ソムリエの努力成果を「保育のソムリエ」カードを作成し、到達段階に応じたカードを手渡し、さらなるモチベーションアップを図るために準備していたが、各ソムリエがコロナにより継続的な運営ができず、手渡せないままに年度終了を迎えてしまった。

「なわてジェンヌ」、「保育のソムリエ」に関しては本学独自の取り組みであるので、引き続き、次年度以降も今年度の反省を踏まえて取り組んでいきたい。次年度は是非、「保育のソムリエ」カードの活用を実現させたい。

学習形態に関しての設問は、1・2年生とも例年と同様に「実習」に関しては90%以上の学生が「役立つ」かどうかの問いに「そう思う」及び「ややそう思う」と回答している。「実習」が例年、学内学習よりも高い数値を示しているのは、保育・教育現場での実践学習の場が学生にとって強い影響力がある証左となっている。一方で学内学習の中で「座学」が「役立つ」かどうかの問いかけに「そう思う」と返答した学生は1・2年生ともに「実習」と比較して減少している。保育・教育現場実習で理論を裏付けている取り組みはいうまでもないが、そのためにも学内学習の必要性をさらに拡充するためにも、教員に求められるのは学生がその認識をもてるようにする授業改善を常に念頭においておかねばならない。また、1・2年生の学習形態に対する認識の違いとして、「講義」、「演習・実技」、

「実習」の3項目ともに「そう思う」と回答しているのが、2年生が10ポイント以上1年生より数値が高い。各形態の必要性が高まっていくのはまさに、学んできた時間の差が影響しているのではないかと思える。

## 設問項目Ⅱ

「教育目標」に基づき各科目で身に付けるべき能力について

5項目については、1・2年生の結果として大きな差は認められなかった。何れの項目も「そう思う」、「ややそう思う」の合計は1・2年生とも8割以上の数値となっている。5項目のうち指摘するならば、「保育、教育、福祉」に関する成り立ち、制度、理念に関する項目が他項目と比較して若干数値が低くなっている。理念については抽象的な概念整理を授業で展開しているが、学生にはこの抽象から具体的概念整理になかなかむすびつかず、苦戦していることが予想される。各授業担当者はこのことを踏まえたうえで、学生の深い学びに繋げられる授業改善を試みなければならない。

また、5項目の教育目標はどれも必要不可欠ではあるが、とりわけ、保育者としての「素養」に関する項目である「保育者・教育者の自覚をもち、知識、教養を深め人間的な成長を高めていく」項目については年度末であるこの時期に保育現場に向かう2年生が「そう思う」という回答を39%で満足するのではなく、次年度以降教員はさらにその数値を高める努力を学生の学校生活全般から見直して向上させていくように取り組んでいかねばならない。

## 設問項目Ⅲ

授業への取り組みについて

授業への取り組みの結果は1・2年生の各項目によって共通する項目と差異が認められる項目があった。まず1・2年生が一致して高い数値を示したのは「欠席しないように心がけた」である。さらに、2年生は「そう思う」、「ややそう思う」を合計すれば74%であるのが、1年生は80%と10ポイント近く高い。1年生は初めての大学の授業で、4月当初の新生ガイダンス時より出席することの重要性を繰り返し説明してきたためと考えられる。さらにはオンライン授業時の出欠要件を授業課題提出ができたかどうかを判断基準としたため、この意識も強く働いたといえる。2年生も授業課題が未提出は「欠席」となり、欠席が重なれば「失格」に繋がる意識が十分に認知されていたのではないかとと思われる。

次に共通して満足度が低かった項目は「勉強環境」である。2年生は「そう思う」、「ややそう思う」は47%、1年生は41%と半数に満たない。この理由も考えられるのが、オンライン授業ではないかといえる。オンライン授業は9割以上が自宅等で「スマホ」受講しているため、ネット環境やひとり学習となっているので、対面授業とは違い、毎回スムーズに受講できなかったのではないかと考えら

れる。しかしながら、「居眠りせず授業に集中した」との問いには2年生は「そう思う」と「ややそう思う」は73%であったのに対し、1年生は59%と10ポイント以上低い。これは、2年間の中で半分以上オンライン授業を経験し、受講方法を自分なりに会得しているかどうかの差違ではと考えられる。

他方、1・2年生で明らかに違いがあった項目は「予習・復習への取り組み」についてである。2年生は「そう思う」、「ややそう思う」と回答したのが、67%であったのに対し、1年生は50%と20ポイント近くの違いがあった。この理由はこのデータだけでは判断できないが、1年生はオンライン授業による課題配信が慣れていないため、かなり苦戦したのが原因ではないかと推察している。

コロナ禍の現状が継続するなかで、オンライン授業の方法については各授業担当者がブラッシュアップする取り組みが強く求められている。

#### 設問項目IV

##### 学習成果について

昨年度に続いて1・2年生とも学習成果に関してすべての項目に高い率を示している。特に2年生に関しては5項目全てが「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて8割以上となっている。さらには5項目が「そう思う」の数値が1年生の数値より10ポイント以上高い。

さらに2年生は5項目の中でも「報恩感謝の思いをもつ」については半数以上の59%が「そう思う」を選択している。建学の精神である「報恩感謝」が2年間の学修過程のなかで意識化されたことは学生生活を送る日々の地道な取り組みがこの成果に結実したといえる。

「報恩感謝」に続いて高い数値をであったのが「積極的に取り組む」、「教養や知性が身に付く」で「そう思う」がそれぞれ53%、50%と半数を超えている。

概ね2年生に関してコロナ禍ではあったものの、期待以上の成果が明確になり、次年度の4月より保育現場や社会人としてこの成果を発揮してほしい。

1年生に関しても5項目の全てがほぼ8割以上となっているが、満足度に関してはすでに述べたように2年生と比較して数値的には低い。

残りの1年間、学修成果を向上できるように教員がこの結果を参考にして次年度取りくまなければならない。



## 2021年度 授業についての満足度調査

ライフデザイン総合学科調査結果コメント (学科長：工藤真由美)

### 設問項目Ⅰ ライフデザイン総合学科のエリアについて

ライフデザイン総合学科には6つのエリア(専門科目群)が存在し、学生は自由にどのエリアからも授業科目を選択し受講できる。それぞれのエリアには、授業を通して取得できる資格や称号があり、中には支援講座となっている科目もある。学生は将来の進路の選択とも照合し、資格・称号取得などを、バランスよく、適した時期に受講科目を選択するよう期初の教務ガイダンスを受け、履修登録を行う。また、将来の進路や取得希望の資格・称号が未定の学生も現在の興味に従い、シラバスを熟読しながら受講を決定していく。ゆえに学生によって、1つのエリアの科目を集中的に履修する場合や、柱となるエリアを決め、関連すると思われるエリアから周辺的な科目を履修する場合、さらには、6エリアをバランスよく履修し自己の興味や適性などを見極めようとする場合など、様々なエリア配分で履修している。そのため、もともと受講者が少ないファッションビジネスエリアは、毎年どの項目でもポイントが低い傾向にあり、今年度も1,2年生ともに同様に2~5%にとどまった。

すべての質問の上位2つを占めるエリアは、1,2年生ともに同じエリアである。内容がわかりやすいエリア、内容に達成感満足を感じたエリア、資格取得に繋がったエリア、興味関心が広がったエリア、受講したい授業開講が多いエリア、主体的に学習できたエリア、これらの6つの質問に対する回答は、いずれもITエリアと医療事務エリアが上位を二分している。もう一つの就職や就活に役立つエリアはどれかの質問には、ビジネスエリアと医療事務エリアが挙げられ、僅差でITエリアが続くというのが例年の傾向であるが、今年は1年生ではビジネスエリアが突出して47%と高く、医療事務エリア27%、ITエリア18%を大きく引き離している。逆に2年生はITエリアと医療事務エリアが35%ずつで二分し、ビジネスエリアは21%と逆転している。これらは近年にない傾向である。今年の2年生(昨年の1年生)は、すべての質問項目でITエリアが上位1位か2位に入っていたので、この傾向は受講生の学年のカラーといえるのかもしれない。また特に1年生では、ITエリアが、内容がわかりやすかったエリア37%、内容に達成感満足を感じたエリア37%、資格取得に繋がったエリア35%となった。2年生では、ITエリアが資格の獲得につながったエリア、受講したい授業開講が多いエリア、主体的に学習に取り組むエリアを除いて、1位を占めている。また、1,2年生ともに興味関心が広がったエリアとして、ファッションビジネスエリアを5%の学生が選択し、2年生では就職や就活に役立つエリアとして5%の学生が選択していることは、ファッション関係の学びに興味を示し授業を選択し、自らの世界を広げた学生が一定数存在し、進路選択に繋がっていることをうかがわせる。同じく授業を受けることで学習への興味関心を広げたエリアとして、食・健康エリアが1年生で6%、2年生では10%まで上昇している。

## 設問項目Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき学生が各授業科目で身に付けるべき能力について

新たな教育目標を導入して2年目となる今年は、2学年同じ教育目標について比較することが可能となった。

1年生は基礎的知識や教養礼儀を身に着けている、社会で活躍できる知識技能を身に着けている、思考力判断力表現力を身に着けている、主体性多様性協働性を身に着けている、ライフデザインを描き続ける能力を身に着けている、いずれにおいてもそう思う、ややそう思う、の合計が、81%から97%と高い数値である。基礎的知識や教養礼儀を身に着けているの項目はそう思うが、53%、ややそう思うが44%、社会で活躍できる知識技能を身に着けているの項目は、そう思うが、47%、ややそう思うが47%と、ほとんどの学生が自信をもって評価していることがうかがえる。特に入学直後から礼儀マナー教育に力を注いでいることや、専門エリアの学びから社会で活躍できる知識、技能の獲得が高く評価されたこの数字は大変喜ばしいと思う。2年生になるとすべての項目で、そう思う、ややそう思うの合計が73%から80%という数字となり、1年生ほどの高水準ではないものの、高い割合を示している。特に各質問項目で1年生では各質問項目にそう思わないの割合が2%ずつ存在しているが、2年生は、思考力判断力表現力を身に着けている、で2%の学生がそう思わないと答えるにとどまり、他の項目では0%であった。

## 設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて

1, 2年生とも同じような回答の傾向であった。コロナ禍により一定の期間オンライン授業の実施という環境下で、授業中積極的に質問した、授業中私語せず集中した、課題には積極的に取り組んだ、いずれもそう思う、ややそう思う、どちらとも言えない、がほぼ均等な割合、30%程度ずつ選択されていた。学習環境について積極的に発言した、の項目ではどちらとも言えないの割合が増加している。また欠席しないように心がけた、の項目では、1, 2年生ともに81%から84%の学生がそう思う、ややそう思うと回答、非常に高い割合で、そう思う、ややそう思うが選択された。授業への出席が基本であるルールがしっかりと意識されていることがわかる。2年生では授業中の居眠りや私語をせず集中するは、そう思うが42%、ややそう思う27%と高い値を示している。しかし、授業の予習復習に真剣に取り組んだ割合は、1年生で57%、2年生で55%と半数程度にとどまっていることがわかる。積極的な予習復習を促す仕組みと、シラバスに記載した予習復習の実行チェックを機能させることが必要である。

設問項目Ⅳ あなたは本学での2（1）年間で、学修成果がどの程度身についたか。

そう思う、ややそう思うという積極的的回答についてみると、報恩感謝の思いを持てた、の項目は、1年生が82%、2年生が84%、教養や知性が身についた、の項目では、1年生が87%、2年生が81%であった。また、自主的積極的に取り組めるようになったが、1年生で73%、2年生で71%と、1、2年生ともに20%以上の学生に受け身な姿勢がみられる。専門的知識（資格含む）が身についた、の項目では、1年生が86%、2年生が72%と、1年生のほうが高い数値を示している。社会人力が身につき人間的に成長できたについては、1年生が80%、2年生が76%であった。1年生では、自主的積極的に取り組めるようになった、専門的知識（資格含む）が身についた、社会人力が身につき人間的に成長できた、の3項目でそう思わないと回答した学生が0%、2年生では報恩感謝の思い、自主的積極的に取り組めるようになった、社会人力が身につき人間的に成長できた、の3項目でそう思わないと回答した学生が0%であった。特に卒業する段階で本学の建学の精神である報恩感謝が身につけていないと回答した学生が皆無であったことは喜ばしいと思う。今後も各質問項目の満足度を向上させるように改善に努めていく。